

分散投資型年金

Global WIN

グローバル・ウィン

新変額個人年金保険(無配当)

特別勘定グループ(GW)

特別勘定マンスリーレポート



特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株インデックス型(GW)	インデックスファンド225VA (適格機関投資家向け)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株アクティブ型(GW)	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3 (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社
海外株式型(GW)	ステート・ストリート外国株式 インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用)	ステート・ストリート・グローバル ・アドバイザーズ株式会社
新興成長国株式型(GW)	JPM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)	JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社
海外債券型(GW)	ピムコ・海外債券ファンド (適格機関投資家専用)	ピムコジャパン リミテッド
日本債券型(GW)	MHAM物価連動国債ファンドVA (適格機関投資家専用)	みずほ投信投資顧問株式会社
海外リート型(GW)	ノムラ海外REIT インデックス ファンドVA(適格機関投資家専用)	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型(GW)	フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

〈募集代理店〉

株式会社 鳥取銀行

TOTTORI
BANK



鳥取銀行

〒680-8686

鳥取県鳥取市永楽温泉町171番地

TEL.0857-22-8181

〈引受保険会社〉

アクサ フィナンシャル生命保険株式会社

160-8335 東京都新宿区西新宿1-23-7 新宿ファーストウエスト10F

TEL 03-6911-9100 FAX 03-6911-9260

http://www.axa-financial.co.jp

特別勘定名称

日本株インデックス型(GW)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株インデックス型(GW)	7.41%	25.27%	11.40%	▲32.94%	▲41.91%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.5%
投資信託	96.5%
合計	100.0%

【参考】日本株インデックス型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

インデックスファンド225VA(適格機関投資家向け)

(運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
インデックス225VA	26.83%	12.90%	▲ 32.59%	▲ 13.95%	1.06%
日経平均株価(225種・東証)	25.82%	11.87%	▲ 33.59%	▲ 14.93%	0.22%
差異	1.01%	1.03%	1.00%	0.98%	0.84%

<純資産総額>

純資産総額 174.63億円

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満(3ヵ月間、6ヵ月間)は、年率換算していません。
 ※ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入(再投資)し、算出しています。
 ※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。

<株式組入上位10業種>

業種名	ファンドのウェイト
1 電気機器	20.67%
2 情報・通信	8.06%
3 小売	7.42%
4 医薬品	7.34%
5 化学	7.07%
6 輸送用機器	6.71%
7 機械	4.71%
8 食料品	3.98%
9 精密機器	3.27%
10 建設	2.78%

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<株式組入上位10銘柄>

銘柄名	ファンドのウェイト
1 ファーストリテイリング	4.76%
2 ファナック	3.23%
3 京セラ	3.14%
4 ホンダ	2.32%
5 ソフトバンク	2.19%
6 信越化学工業	2.10%
7 KDDI	2.10%
8 キヤノン	1.99%
9 東京エレクトロン	1.84%
10 TDK	1.79%

(組入銘柄数225銘柄)
 ※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<資産構成>

株式	98.90%
一部上場	98.90%
二部上場	0.00%
地方単独	0.00%
ジャスダック	0.00%
その他	0.00%
株式先物	1.10%
株式実質	100.00%
現金その他	1.10%

※当ファンドの実質の組入比率です。

<運用コメント>

月初8,828円26銭の日経平均株価は、日米での景気および企業業績の底入れ期待や、米大手金融機関の財務不安後退、さらに為替相場での円安基調などを背景に、中旬にかけて上昇基調をたどりました。その後、高値警戒感が広がるなか、為替相場が円高に振れたことを嫌気し、輸出関連株を中心に日経平均株価は反落しました。4月の米小売売上高が市場予想を下回り、米国経済の先行き不透明感が台頭したことも相場を下押ししました。月半ば以降は、新型インフルエンザの感染拡大や米経済成長見通しの下方修正などに圧迫される局面もありましたが、根強い景気底入れ期待に支えられて日経平均株価は緩やかに上昇し、9,522円50銭で月末を迎えました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本株アクティブ型(GW)

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

運用方針

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株 アクティブ型 (GW)	7.82%	23.65%	12.01%	▲33.68%	▲42.41%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.0%
投資信託	97.0%
合計	100.0%

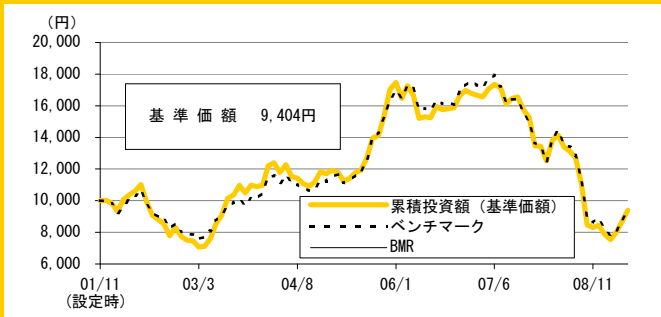
【参考】日本株アクティブ型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行います。

設定来の運用実績 (2009年5月29日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、申込手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。※基準価額は信託報酬控除後のものです。

<運用コメント>

5月の東京株式市場は、月初に急騰した後、もみあいながらも高値圏を維持して月を終えました。

内外景気の底入れ期待が高まる中、米大手銀行の資産査定(ストレステスト)の結果は想定ほど悪くないとの報道から米国株が上昇した流れを受け、連休明けの日本株も大幅上昇を演じることとなりました。その後、米国債格下げ懸念や市場予想を下回った米小売売上高などが投資家心理に冷や水を浴びせ、加えて円高ドル安の進行も嫌気されましたが、一方では根強い景気回復期待が下支え役となり、株価は一進一退の動きを続けました。月末にかけて景気の改善を示唆する日米マクロ経済指標が相次いで発表されると、商品市況の回復も相俟って地味は好転、再度上値を試す展開となって月を終えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が+7.18%、日経平均株価は+7.86%となりました。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

<資産別組入状況>

株式	95.3%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	1.0%
現金・その他※	3.7%

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)2.8%を含みます。

<市場別組入状況>

東証1部	87.6%
東証2部	-
ジャスダック	2.2%
その他市場	6.5%

<組入上位5業種>

電気機器	18.1%
輸送用機器	9.7%
機械	7.8%
情報・通信業	5.8%
化学	5.7%

(対純資産総額比率)

*各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

*ファンドは短期資金の運用の一環として、委託会社が設定した「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」に投資する場合があります。これはあくまでも短期資金の運用であるため、組入上位10銘柄、市場別組入状況には含めず、資産としては「現金・その他」に分類いたしております。なお、未払金等の発生により、「現金・その他」の数値が「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」の数値を下回ることがあります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

商品概要	2009年6月(月次改訂)
形態	追加型投信/国内/株式
投資対象	わが国の株式等
設定日	2001年11月29日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2009年5月29日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	8.18%	24.90%	13.16%	▲33.49%	▲5.96%
ベンチマーク	7.18%	20.07%	9.01%	▲34.79%	▲5.84%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

※ベンチマーク：TOPIX(配当金込)

過去5期分の収益分配金(税込み)		
第3期(2004.11.30)	-----	0円
第4期(2005.11.30)	-----	0円
第5期(2006.11.30)	-----	0円
第6期(2007.11.30)	-----	0円
第7期(2008.12.01)	-----	0円

純資産総額 1,537.2 億円 (2009年5月29日現在)

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2009年4月30日現在)

順位	銘柄	業種	比率
1	ダイキン工業	機械	3.2%
2	トヨタ自動車	輸送用機器	3.1%
3	野村ホールディングス	証券・商品先物取引業	2.7%
4	日本電産	電気機器	2.5%
5	三菱電機	電気機器	2.4%
6	日立金属	鉄鋼	2.0%
7	ミスミグループ本社	卸売業	2.0%
8	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	1.9%
9	リナイ	金属製品	1.8%
10	キヤノン	電気機器	1.8%

(組入銘柄数:254) 上位10銘柄合計23.3%(対純資産総額比率)

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」は、組入上位10銘柄の対象から除いています。

(2009年4月30日現在)

特別勘定名称

海外株式型(GW)

運用方針

日本を除く主要先進国企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、MSCI KOKUSAIインデックスに連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
海外株式型 (GW)	6.09%	23.64%	9.28%	▲41.91%	▲41.72%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.3%
投資信託	95.7%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

【参考】 海外株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1 (適格機関投資家専用)

(運用会社:ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
ステート・ストリート 外国株式インデックス・ ファンドVA1	6.39%	24.89%	10.49%	▲ 41.91%	9.94%
MSCIコクサイ インデックス (円換算)	6.51%	25.43%	11.30%	▲ 41.38%	18.24%
差異	▲ 0.13%	▲ 0.54%	▲ 0.80%	▲ 0.54%	▲ 8.30%

<総資産総額>

純資産総額 4,682百万円

<組入銘柄数>

銘柄数 (マザーファンド) 1,312

<信託財産構成比>

項目	国名	比率	
外国株式	[全体]	96.3%	
	<北米>	57.7%	
		アメリカ	52.4%
		カナダ	5.4%
	<アジア・太平洋>	5.5%	
		オーストラリア	3.4%
		香港	1.3%
		シンガポール	0.7%
		ニュージーランド	0.1%
	<ヨーロッパ>	33.1%	
		イギリス	10.6%
		フランス	5.4%
		ドイツ	4.1%
		スイス	3.8%
		オランダ	1.2%
		イタリア	1.8%
		スペイン	2.2%
		スウェーデン	1.2%
		フィンランド	0.7%
		ベルギー	0.5%
	アイルランド	0.1%	
	デンマーク	0.5%	
	ノルウェー	0.4%	
	ギリシャ	0.3%	
	ポルトガル	0.2%	
	オーストリア	0.2%	
その他(現金及び株価指数先物)		3.7%	

<外国株式組入上位10銘柄>

順位	銘柄	国	業種	比率
1	EXXON MOBIL CORP	アメリカ	エネルギー	2.1%
2	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.0%
3	PROCTER & GAMBLE CO	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	1.0%
4	BP PLC	イギリス	エネルギー	0.9%
5	JOHNSON&JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	0.9%
6	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	0.9%
7	AT & T INC	アメリカ	電気通信サービス	0.9%
8	IBM CORP	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	0.9%
9	GENERAL ELECTRIC CO	アメリカ	資本財	0.9%
10	JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	各種金融	0.8%

※マザーファンド・ベース
※比率は対純資産で計算しています。

<運用コメント>

<5月の市場概況>

5月の米国株式市場は、4月のISM製造業景況指数が4ヶ月連続の上昇となるなど、景気指標の改善が好感され、株価は上昇してスタートしました。その後は、相次ぐ大型増資で株式の希薄化が懸念されたことなどから、株価は一時軟調な展開となりましたが、経済指標の改善などが下支え要因となり、株価は月末にかけて堅調に推移しました。ダウ平均は8,500.33(前月比+4.07%)、ナスダック総合は1,774.33(前月比+3.32%)、S&P500指数は919.14(前月比+5.31%)で終了しました。

欧州市場は、4月の経済指標が改善したことから、欧州経済の回復期待が高まり、株価は上昇してスタートしましたが、その後、09年1-3月期の決算発表で業績下方修正が相次いだことが嫌気され、株価は一時軟調な展開となりました。月末にかけては、景気底打ちに対する期待感根強いものの、英国債の格付け見通しが引き下げられるなど懸念材料も多く、株価は横ばいで推移しました。英FT指数は4,417.94(前月比+4.11%)、仏CAC指数は3,277.65(前月比+3.73%)、独DAX指数は4,940.82(前月比+3.59%)で終了しました。

アジア市場については、4月の中国経済指標が相次いで改善を示すなど、中国を中心とした景気回復基調が鮮明になったことが好感され、株価は中旬にかけて上昇しました。その後、株価は一時軟調な展開となる場面もあったものの、景気先行きに対する楽観的な見方が広がったことなどから、月末にかけて株価は堅調に推移しました。豪ASX200指数は3,818.10(前月比+0.99%)、香港ハンセン指数は18,171.00(前月比+17.07%)で終了しました。

外国為替市場は、格付会社が英国債の格付け見通しをネガティブへと変更したことを受けて海外債券に対する格下げ懸念が波及する中、日本円が買い戻されました。円は対米ドルで月間1.33%上昇の96.48円となりました。

MSCIコクサイ指数パフォーマンスは前月比+6.51%となりました。

※マザーファンド・ベース
※比率は対純資産で計算しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

新興成長国株式型(GW)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
新興成長国株式型(GW)	20.21%	55.41%	47.75%	▲40.58%	▲6.72%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.6%
投資信託	95.4%
合計	100.0%

【参考】 新興成長国株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

JPM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付)

(運用会社: JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
JPM・BRICS5・ファンド	21.0%	58.4%	50.7%	▲40.9%	12.6%

※騰落率については、基準価額に税引き前分配金を再投資して計算しております。
 ※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。
 ※ファンド設定日は2006年5月26日です。

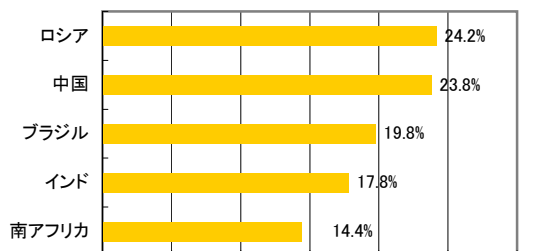
<株式組入上位10銘柄>(銘柄数 44銘柄)

順位	銘柄	国	業種	比率
1	ズベルバンク	ロシア	銀行	4.65%
2	ガスプロム	ロシア	エネルギー	4.37%
3	中国建設銀行	中国	銀行	4.10%
4	中国移动	中国	電気通信サービス	4.10%
5	コンパニア・ヴァリ・リオドセ	ブラジル	素材	4.01%
6	HDFC	インド	銀行	3.93%
7	中国人寿保険	中国	保険	3.88%
8	ブラジル石油公社	ブラジル	エネルギー	3.83%
9	リライアンス・インダストリーズ	インド	エネルギー	3.58%
10	利豊	中国	小売	3.47%

(2009年4月30日現在)

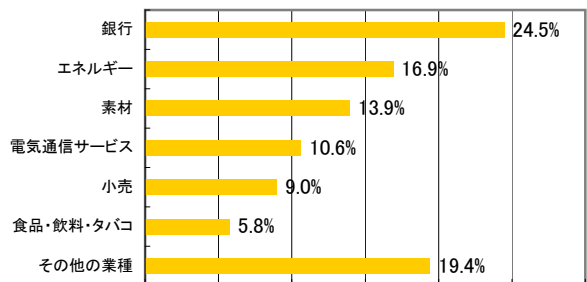
※マザーファンド・ベース ※比率は対純資産で計算しています。

<国別構成比率>



0.0% 5.0% 10.0% 15.0% 20.0% 25.0% 30.0%
 ※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入れ有価証券を100%として計算しております。

<業種別構成比率>



0.0% 5.0% 10.0% 15.0% 20.0% 25.0% 30.0%
 ※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入れ有価証券を100%として計算しております。

<運用コメント>

市場概況

当月のBRICS5カ国を含むエマージング株式市場は、3ヶ月連続の上昇となりました。世界経済が最悪期を脱したとの見方が広がりましたが、依然として底堅い需要回復の兆しは確認できません。しかしながら、中国では鉱工業生産や小売売上高が引き続き前年比でプラスを維持しているほか、商品価格の上昇やドルの下落などがエマージング株式市場にとって支援材料となりました。国別では、すべての国で上昇となり、特にインドとロシアの上昇が大きくなりました。

運用状況

- ・当ファンドの月末基準価額は10,449円、前月比21.0%の上昇となりました。
- ・国別の投資比率は中国とロシアが20%を上回る比率となった一方で、その他の3カ国は20%以下の比率となりました。
- ・当月は株価要因、為替要因ともにプラスとなりましたが、特にBRICS5カ国すべての株式市場が大幅に上昇したことが基準価額上昇に貢献しました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外債券型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
海外債券型 (GW)	3.51%	6.32%	11.23%	▲10.66%	▲7.93%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.3%
投資信託	96.7%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

【参考】 海外債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ピムコ・海外債券ファンド(適格機関投資家専用)

(運用会社:ピムコジャパン リミテッド)

<基準価額の騰落率>

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
ピムコ 海外債券ファンド	3.72%	6.84%	12.32%	▲ 9.91%	23.86%
ベンチマーク	1.53%	3.84%	6.52%	▲ 8.04%	27.33%
差異	2.19%	3.00%	5.80%	▲ 1.86%	▲ 3.47%

※ベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス(除く日本、為替ヘッジなし)90%、1ヶ月日本円Libor10%を合成したものです。

<ファンドの一般特性>

平均クーポン	3.84%
平均直接利回り	4.11%
平均最終利回り	6.53%
平均デュレーション	6.31年
平均償還期間	8.26年
平均格付け	AA+
債券組入比率	97.53%

<国別構成比>

国名	組入比率
アメリカ	35.45%
ユーロ圏	46.29%
イギリス	12.53%
カナダ	3.85%
スウェーデン	0.14%
ポーランド	0.00%
オーストラリア	1.71%
日本	0.03%
合計	100.00%

<格付構成比>

格付	組入比率
AAA	76.28%
AA	7.00%
A	9.42%
BBB	2.18%
BB以下	0.09%
A1/P1	5.03%
A2/P2	0.00%
合計	100.00%

<種類別配分>

セクター名	組入比率
国債、エージェンシー債	72.74%
モーゲージ債、アセットバック債	8.17%
社債	16.62%
キャッシュ等*	2.47%
合計	100.00%

※「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

<運用コメント>

<市場コメント>

米国債券市場は、景気後退を示唆する経済指標を受けて堅調に推移する場面も見られたものの、大規模な国債入札に伴う需給環境の悪化や、相次ぐ国債の増発に伴う財政悪化に対する懸念が高まり軟調に推移しました。(2年債利回りは前月比0.02%、10年債利回りは前月比0.34%上昇しました。)

ユーロ圏債券市場は、景気悪化を示す経済指標を受けて堅調に推移する場面も見られたものの、世界的なりセッションが最悪期を過ぎたとの見方が広がり、株式相場が上昇したことから軟調に推移しました。(2年債利回りは前月比0.08%、10年債利回りは前月比0.41%上昇しました。)英国債券市場は、月初から市場予測を上回る経済指標が相次ぎ景気の底打ち期待が高まったこと、格付け機関であるS&P社が英国債の格付け見通しをネガティブに引き下げたことなどから軟調に推移しました。(2年債利回りは前月比0.02%、10年債利回りは前月比0.25%上昇しました。)

日本債券相場は、需給悪化懸念による弱い地合に加え、米金融システム安定化への期待から過度の景気悲観論が後退し、軟調に推移しました。(2年債利回りは前月比0.03%低下、10年債利回りは前月比0.06%上昇しました。)

<パフォーマンス>

先月のパフォーマンスはプラス3.72%となり、ベンチマークを2.19%上回りました。社債やモーゲージ債への投資等のセクター戦略や米国において長短金利差の拡大を見越した戦略がプラスに寄与した一方で、米国やユーロ圏のデュレーションをオーバーウェイトとした金利戦略はマイナスとなりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本債券型(GW)

運用方針

国内の物価連動債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
日本債券型 (GW)	▲2.04%	1.60%	0.09%	▲10.10%	▲10.93%

特別勘定資産内訳

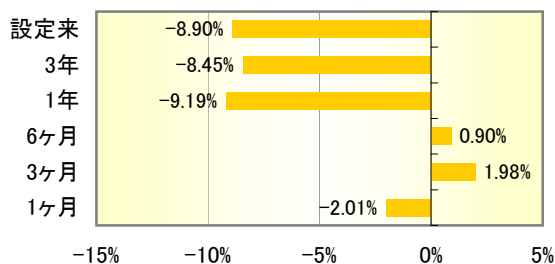
	構成比(%)
現預金・その他	2.3%
投資信託	97.7%
合計	100.0%

【参考】日本債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

MHAM物価連動国債ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:みずほ投信投資顧問株式会社)

<期間別騰落率>累積収益率



※累積収益は、ファンドの決算時に収益分配があった場合にその分配金(課税前)を再投資したものと算出。
※累積収益率は実際の投資家利回りとは異なります。

<組入上位5銘柄の組入比率>

順位	銘柄名	利率	償還日	比率
1	第2回物価連動国債(10年)	1.100%	2014/06/10	41.6%
2	第4回物価連動国債(10年)	0.500%	2015/06/10	33.6%
3	第3回物価連動国債(10年)	0.500%	2014/12/10	12.4%
4	第1回物価連動国債(10年)	1.200%	2014/03/10	7.1%
5	第12回物価連動国債(10年)	1.200%	2017/06/10	2.0%

<ポートフォリオの状況>

組入銘柄数	6銘柄
公社債の平均残存期間	5.5年

※組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

国内債現物	98.3%
国内債先物	0.0%
その他資産	1.7%

※その他資産は、100%から国内債現物・国内債先物の組入比率の合計を差し引いたものです。

<公社債の残存期間別組入比率>

残存年数	比率
1年未満	0.0%
1年～3年	0.0%
3年～7年	96.2%
7年～10年	2.0%
10年以上	0.0%

※組入上位5銘柄の組入比率、公社債の残存期間別組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

<運用コメント>

■先月の投資環境

第1回物価連動国債利回りは、5月末現在で2.68%と前月末比0.52%上昇しました。

第1回物価連動国債とほぼ同じ期間の10年長期国債(第258回債)との複利利回り格差(物価連動国債が償還までにどれだけの物価上昇(年率)を織込んでいるかを示す値=ブレイクイーブンインフレ率)は、月初マイナス1.3%程度で始まり、もみ合いながら推移していましたが、中旬以降マイナス幅を拡大させ、27日にはマイナス1.9%台前半となりました。月末にかけてはやや戻しましたが、マイナス1.7%台後半で月末を迎えました。この結果、ブレイクイーブンインフレ率のマイナス幅は前月末比で拡大しております。

ほぼ同じ期間の10年長期国債利回りが横ばい(10年長期国債(第258回債)複利利回りが±0.0%の利回り横ばい)となったものの、ブレイクイーブンインフレ率のマイナス幅が拡大したため、第1回物価連動国債の利回りは上昇しました。第2回～第16回物価連動国債については、ほぼ同じ期間の10年長期国債利回りは上昇し、ブレイクイーブンインフレ率のマイナス幅が拡大したため、物価連動国債利回りは上昇しました。

また、全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数。以下コアCPIという。)から算出する物価連動国債の5月末の連動係数は、4月末比0.1%～0.2%程度上昇しました。

■先月の運用概況

物価連動国債を高位に組入れているポートフォリオを維持しました。組入れた公社債の平均残存期間は5.50年となっております。

かかる運用の結果、物価連動国債の連動係数の上昇がプラスに寄与したものの、10年長期国債利回りが全般的に上昇したことや、ブレイクイーブンインフレ率のマイナス幅の拡大がマイナスに影響したことから、当ファンドの5月末の基準価額は9,014円と前月末比185円の下落となりました。

■今後の運用方針

物価連動国債が参照する物価指数であるコアCPIの足元の状況については、2008年半ば以降、原油価格が急落したことや、世界的な景気後退の中で物価低下圧力が強まったこともあり、5月初めに発表された3月分のコアCPIの値が前年同月比マイナス0.1%と1年6ヶ月ぶりに下落しました。また、5月末に発表された4月分の値も前年比でマイナス0.1%となっており、今後発表される前年同月比の値はマイナス幅が拡大していく可能性が高いと見込んでおります。

物価連動国債市場を取り巻く環境については、引続き需給面で不安定さが残っておりますが、現在の金融市場を取り巻く環境が徐々に改善していけば、ブレイクイーブンインフレ率の水準は修正されていくものと考えます。また、中長期的には社会保障費の増加に伴う消費税の引き上げも議論されてくるものとの判断の下、期待インフレ率及びコアCPIの変化に備えたポートフォリオを維持していく方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外リート型 (GW)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信 (REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外リート型 (GW)	1.94%	28.48%	2.80%	▲54.24%	▲61.08%

特別勘定資産内訳

	構成比 (%)
現預金・その他	4.1%
投資信託	95.9%
合計	100.0%

【参考】 海外リート(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ムラ海外REIT インデックス・ファンドVA (適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ムラ海外REITインデックス ファンドVA	2.2%	30.6%	3.9%	▲54.5%	▲57.6%
ベンチマーク	2.4%	30.4%	3.7%	▲54.7%	▲56.8%

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」は「ザ・マグロウヒル・カンパニーズの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関しかなる意思表示等を行なうものではありません。

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み、円換算ベース) はS&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み、ドルベース) を委託会社において円換算したものです。

<資産配分比率>

資産種別	総資産比
REIT(リート)	99.5%
その他	0.5%
合計(※)	100.0%

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。
※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

<実質通貨別配分>

通貨	総資産比
日本・円	0.0%
外貨計	100.0%
アメリカ・ドル	56.2%
ユーロ	11.9%
イギリス・ポンド	8.6%
その他外貨	23.3%

・実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

<国・地域別配分>

国・地域	総資産比
アメリカ	56.2%
オーストラリア	15.1%
イギリス	8.6%
フランス	8.0%
シンガポール	3.0%
その他の国	9.1%
合計	100.0%

<REIT 組入上位10銘柄>

	銘柄名	国・地域名	総資産比
1	WESTFIELD GROUP	オーストラリア	7.1%
2	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	5.3%
3	UNIBAIL RODAMCO SE	フランス	4.8%
4	PUBLIC STORAGE	アメリカ	3.1%
5	VORNADO REALTY TRUST	アメリカ	2.7%
6	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ	2.4%
7	HCP INC	アメリカ	2.3%
8	LAND SECURITIES GROUP PLC	イギリス	2.2%
9	BOSTON PROPERTIES	アメリカ	2.1%
10	STOCKLAND TRUST GROUP	オーストラリア	2.0%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。
※国・地域名は発行国・地域で区分しております。

<市場コメント>

●世界的な景気回復期待の高まりや一部銘柄の増資完了に伴い資金繰り懸念が後退したことなどを背景として、外国リート市場は欧州・アジアを中心に上昇しました。

(野村アセットマネジメント作成)

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

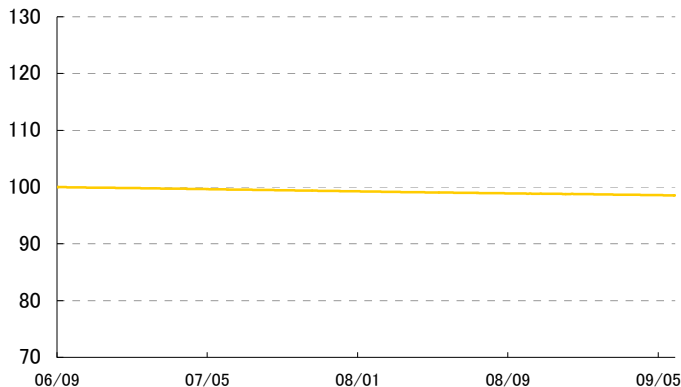
特別勘定名称

マネープール型(GW)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
マネープール型 (GW)	▲0.05%	▲0.13%	▲0.27%	▲0.50%	▲1.47%

特別勘定資産内訳

	構成比 (%)
現預金・その他	15.7%
投資信託	84.3%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をもとに「100」として指数化したものです。

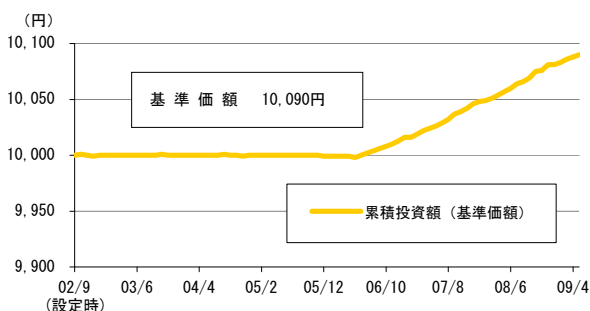
【参考】マネープール型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

設定来の運用実績 (2009年5月29日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。
ただし、申込手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。
※基準価額は信託報酬控除後のものです。

純資産総額 168.4 億円 (2009年5月29日現在)

商品概要 (2009年6月(月次改訂))

形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2009年5月29日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	0.02%	0.07%	0.14%	0.33%	0.90%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(税込み)

第3期(2004.11.30)	0円
第4期(2005.11.30)	0円
第5期(2006.11.30)	0円
第6期(2007.11.30)	0円
第7期(2008.12.01)	0円

(2009年4月30日現在)

<資産別組入状況>

債券	91.9%
CP	-
CD	-
現金・その他	8.1%

<組入資産格付内訳>

長期債券格付	AAA/Aaa	-
	AA/Aa	91.9%
短期債券格付	A	-
	A-1/P-1	-
	A-2/P-2	-
現金・その他		8.1%

平均残存日数	51.43日
平均残存年数	0.14年

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(「プラス/マイナス」の符号は省略しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

組入上位10銘柄(マザーファンドベース) (2009年4月30日現在)

順位	銘柄	種類	格付	比率
1	第5回 国庫短期証券 2009/05/25	債券	AA/Aa	13.1%
2	第7回 国庫短期証券 2009/06/08	債券	AA/Aa	10.9%
3	第19回 国庫短期証券 2009/07/21	債券	AA/Aa	10.9%
4	第20回 国庫短期証券 2009/07/27	債券	AA/Aa	10.9%
5	第3回 国庫短期証券 2009/05/18	債券	AA/Aa	8.8%
6	第9回 国庫短期証券 2009/06/15	債券	AA/Aa	8.8%
7	第13回 国庫短期証券 2009/06/29	債券	AA/Aa	8.8%
8	第16回 国庫短期証券 2009/07/13	債券	AA/Aa	8.7%
9	第12回 国庫短期証券 2009/06/22	債券	AA/Aa	6.6%
10	第565回 政府短期証券 2009/05/07	債券	AA/Aa	4.4%

(組入銘柄数:10)

上位10銘柄合計 91.9%
(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置（運用）期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動（増減）します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して (年率0.75%+運用実績に応じた費用(※))/365日 を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用: 運用実績を毎日判定し、運用実績が 年率1.5%を超過した 場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、 移転一回につき1,000円 を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本株インデックス型(GW) 年率0.42%程度
	日本株アクティブ型(GW) 年率0.924%程度
	海外株式型(GW) 年率0.399%程度
	新興成長国株式型(GW) 年率1.155%程度
	海外債券型(GW) 年率0.9135%程度
	日本債券型(GW) 年率0.252%~0.3675%程度
	海外リート型(GW) 年率0.42%程度
マネープール型(GW) 年率0.008925%~0.525%程度	

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「グローバル・ウィン」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「グローバル・ウィン」には「特別勘定グループ(GW)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(GW)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(GW)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「グローバル・ウィン」は現在販売しておりません。